The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	『Communication-Design 2005-2015』∞号について
Author(s)	
Citation	Communication-Design 特別号. 2016, 1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/55658
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『Communication-Design 2005-2015』∞号について

――――コミュニケーションデザイン・センターについて

2005年4月に誕生した大阪大学コミュニケーションデザイン･センター(以下、CSCD)は、「専門知識をもつ者ともたない者のあいだ、利害や立場の異なる人々のあいだをつなぐ、コミュニケーションの回路を構想・設計・実践すること」を目標に掲げ、総合大学におけるまったく新しい役割を担うものとして、多種多彩な活動を創造、展開してきました。全学の大学院生を主たる対象に高度教養・共通教育を提供する「コミュニケーションデザイン科目」開発と実施、社会の諸セクターと大学を結ぶ社学連携事業、この両者を統合するコミュニケーションデザインに関する研究、この三つを柱として、多様な専門と技能を身につけたメンバーがそれぞれの分野を開かれたものへと変革し、コミュニケーションにかかわるテーマや課題に対して、実験的な活動を繰り広げてきました。大学院レベルでの横断型教育の実施は全国の大学での高度教養教育導入の先駆けとなり、対話の活動は社会に徐々に浸透し、新たな回路として錨を下ろしつつあります。また学術、行政、市民活動、その他の領域においても創造的で横断的な知を育むことが不可避の課題として認識され、そのための具体的なアクションが期待されています。

――――経緯

本書『Communication-Design』は、CSCDの活動と研究をより多くのひとたちと結ぶために、2006年度から定期刊行されてきました。CSCDのテーマカラーにちなんで「オレンジブック」の愛称で呼ばれ、従来の研究論文の形式をとるものから新しい表現を追求するものまで、多様な試みが続けられています。

0号から2号までは、CSCDの諸活動を紹介する「特集」とコミュニケーションデザイン研究の成果を発信する「論集」の2部によって構成されています。準備号にあたる0号の特集「26人が描くコミュニケーションデザイン」では、CSCDの情報をグラフィカルに表現したダイアグラムとともに、7名の教員がリレー方式でこれからの課題を語り、1号特集では、本格的に動き出した教育プログラム、学外連携活動、研究会の紹介に加え、前号に続くリレーとして3名のデザイン担当教員が大学でのデザイン活動の挑戦と意義を語りあい、2号では「協働主義！」と題して、災害やまちづくりなど、社会で展開されるコミュニケーションデザインについて特集しました。第1期の5年間を締めくくる3号では、特集と論集が統合され、25名のスタッフ全員がそれぞれの取り組みを振り返りつつ未来を展望する論考が提示されました。

第2期に入る2010年から、それまでの「特集」部分については、多様化した諸活動を迅速に伝えるためにウェブサイトをベースとした発信へと舞台が移され、「CSCD スペシャル」などの記事が日々アップデートされるとともに、ウェブサイトが膨大な活動のデータベースとしての機能をあわせもつことになりました。「論集」部分も同様に、より多くのひとびとにアクセスしてもらえるためにオンラインでの発行へと移行しました。フットワーク軽く年に2度の発行ペースで、学内外のさまざまな研究者・実践者からコミュニケーションデザインに関わる数多くの論考が寄せられてきました。

――――本号について

第2期の最終年に発行される本号は、設立からの11年を総括し、さらなる飛躍への期待をこめて、無限を象徴する「∞号」と名づけられました。無数のコミュニケーションデザインを孵化させ、養育し、交雑させてきたのは、ほかならぬ〈ひと〉であり、そうした〈ひと〉たちによって限りなく織り続けられることばのタペストリーとして本号が編まれました。

冒頭では、歴代センター長をつとめた3名が設立から現在までの裏話をふくめたヒストリーを語り、続く〈エッセイ〉では、すでに離任したメンバーも含め主要スタッフ 13 名がこれまでの教育研究活動をそれぞれの視点と文体で物語ります。〈インタビュー〉では、「科学技術」「臨床」「アート」「コミュニティ」の４つの部門に属するスタッフが、それぞれCSCDをどのように経験し、そのなかでどう変容してきたのかを証言します。〈ダイアローグ〉では、多様化し発散していくようにみえる活動をどうやって次のステップへと進めるのかについてさまざまな意見が交わされます。最後に、巻末資料として、CSCDの社学連携活動を代表するラボカフェプロジェクトの約10年間の軌跡を掲載しました。

「大学の『中』にある『外』という奇妙な立ち位置」(0号小林傳司教授のことば)からスタートしたCSCDという冒険は、11年という年月を経て、大学における新しい役割を担うべく次のステージに進もうとしています。本書に綴られた〈ひと〉たちのことばや証言、対話の一つ一つが、次なる試みが根を張り幹を伸ばすための豊かな知の土壌を形成しています。その広がりと深まりをどうぞお楽しみください。

オレンジブック・プロジェクト